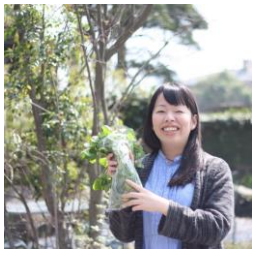
第16回オーライ！ニッポン大賞　12受賞者（概要）

No.	都道府県 市町村	受賞者名	概　　要	
オーライ！ニッポン大賞グランプリ				
1	和歌山県 田辺市	農業法人 株式会社秋津野	上秋津地区は、古くからのミカン・柑橘を主体に南高梅などが栽培される農業が盛んな地域、農家は約330戸（内専業農家は約130戸）。昭和30年代から、住民主体の地域づくりを続けている。消費者との交流を目的に平成11年住民出資で、農産物直売所『きてら』を開店。2004年9月地元柑橘を使ったジュース工房『俺ん家ジュース倶楽部』を事業化。2006年には小学校として使われなくなる心の地域資源でもある上秋津小学校跡地を再整備して、都市住民の方が気軽に農村に訪れられる空間やメニューを提供。地域内外住民489名の出資で農業法人株式会社秋津野を起ち上げ、2008年11月1日『秋津野ガルテン』をオープンさせ、農家レストラン、宿泊、農業体験、市民農園、みかんのオーナー制度等、年間7万人の交流人口を生み出している。	
オーライ！ニッポン大賞				
2	北海道 壮瞥町	特定非営利活動法人 有珠山周辺地域ジオパーク友の会	壮瞥町や周辺自治体で推進する洞爺湖有珠山ジオパーク（世界地質遺産）及びエコミュージアム・自然博物館づくりと連携し、火山と共生するふるさとを学び、地域文化の伝承、地域の魅力の発信、ガイド活動、人材育成と交流の促進を実施している。昭和新山登山学習会、有珠山登山学習会（入山禁止区域に入るジオツアー）、洞爺湖中島散策会、オロフレ樹氷観察スノーシューツアー、教育旅行ガイド、地元小学生の郷土史講座防災学習への協力等、社会に対して先人たちが築いた災害を減らし自然と親しみながら火山との共生を図ることを学ぶ場所を創出している。入山禁止区域へのジオツアーを通じて、企業と連携しながらジオパークにおける災害を減らす取り組みを教育旅行のプログラムとして確立した。年間160団体3,000名ほどの参加者がある。	
3	秋田県 大館市	大館市まるごと体験推進協議会	地域伝統食「本場のきりたんぽ」づくり体験、農業体験、農家民宿の体験受入を行っている。きりたんぽ鍋のダシや具材に欠かせない比内地鶏の日本一の産地として、新鮮で、脂がのったコクのある美味しい比内地鶏を使う本場のきりたんぽを食べさせたい！と修学旅行の受け入れに立ち上がる。最高の修学旅行の体験にしてあげたい！一生忘れられない思い出を持ち帰ってもらいたい！と農作業後に、話合いを重ね、その地その地で温められてきた言葉からも、地域を感じて欲しい！と、楽しく方言から地域を学ぶ「爆笑！秋田弁講座劇」を作った。農家のお母さんは演じ見られる喜びを感じて輝きを増している。更に秋田弁を感じてもらおうと、「秋田弁ラジオ体操」をつくりメディアに取上げられ、修学旅行や農家民宿の利用が増えている。	
4	東京都 文京区	村おこしNPO法人ECOFF	第2のふるさとが見つかる離島・農山漁村住み込み型のボランティアを「村おこしボランティア」と名付け受け入れ地域と連携しプログラム化、ECOFFは集客や事務作業のサポートに徹している。参加者は国内外の秘境に行き、全国から集まった同世代の仲間たちと10日間の共同生活を行いながら、農作業や伝統行事のお手伝いなど、その地域がその時必要としているボランティア活動をする。現在は30ヶ所で展開。年間477人が参加。助成金等には一切頼らず参加者側に必要最低限の費用を負担してもらい受入地域の負担も軽くする。10名近い参加者が村おこしボランティアを通じて知った地方に移住している。	
5	長野県 泰阜村	特定非営利活動法人グリーンウッド自然体験教育センター	青少年に「心の豊かさ」や「生きる力」を育くむために、村全体を舞台に多彩な自然体験教育プログラムを展開する。子どもたちが親元を離れ、泰阜村の小中学校に通いながら宿泊棟で1年間の共同生活する「だいだらぼっち」や、毎年夏に約1,000人を超える子どもが参加する3泊～1週間程度のキャンプ「信州こども山賊キャンプ」を33年間実施している。山賊キャンプには、OB・OGを含め、全国から300人を超す若者ボランティアが集まる。NPOの予算規模は約1億円。自主事業収入が8割を超え、支出額のうち7,000万円が地域に還元される」。交流人口は年間のべ2万人超。人口1,600人の村にあって20人弱の若者を雇用する他、UIターンを誘発するなど「小さな村の優良企業」に成長し、「絶対無理だ」と言われていた教育産業を成立させ「教育を中心においた都市山村交流」を展開中。	
オーライ！ニッポン大賞　審査委員会長賞				
6	埼玉県 深谷市	ふかや緑の王国ボランティア	【市民の力を市民のために】ふかや緑の王国を拠点とし、「市民が作り、市民が守り育てる市民の森」を目指すために管理運営はボランティアの力を最大限に発揮している。バラをメインとしたローズガーデン、ハーブや香りのある草花などで癒しを与えるヒーリングガーデンなど各種ガーデンや昭和30年代の農村風景の再現を図ったふかや村、冒険・昆虫の森（防風林）などを整備し、年間を通して多くの都市生活者が来場している。3月梅まつり、6月ホタル鑑賞会、米つくり体験、7月トウモロコシとじゃがいもの収穫体験、10月森の音楽祭、11月里芋とサツマイモの収穫体験、紅葉ライトアップ・あかり展、秋まつりを開催し、また、市内小学生を対象の「王国自然クラブ」は、王国ボランティアと一緒に米作り体験、繭玉作りやどんど焼きなどの活動を行っている。	
7	東京都 中央区	一般社団法人マツリズム	マツリズムは「祭りの力で人と町を元気に」をモットーに、多様な人が混ざりあい支え合う感謝と受容の社会づくりを目指しています。都市部の若者や外国人が地元の祭の担い手に混ざって祭を体感できる "Ma-tourism"（祭参加体験ツーリズム）を全国で展開。受入地域と連携して、これまで12の地域で約30回のツーリズムを企画し、のべ400人が参加。一般にはハードルの高い地域の祭への参加体験を通じて、日常では得られない気づきや地域のコアなファンが生まれ、参加者からの「楽しかった」「また参加したい」という声は、担い手が祭を存続していくための新たな意欲にもつながります。また、祭の価値を考えるワークショップの実施や担い手同士のネットワーク構築を通じて、祭の課題解決にも寄与しています。	

オーライ！ニッポン大賞　審査委員会長賞				
8	新潟県 上越市	月影の郷運営委員会	旧月影小学校を再生活用した宿泊体験交流施設「月影の郷」を活動拠点として、会員（地元のお父さんとお母さん）の手により「月影の郷」を管理・運営している。幼稚園や中学校、高校、大学など学校関係が行う行事、各種体験学習の活動、卒論ゼミや各種スポーツの合宿、同級会、冠婚葬祭等による宿となっている。「地産地消」を推進するために、会員の自給野菜や地元農家の食材を活用した「食事の提供」や手打ちそば、笹を使った（押し寿司・箕寿司・笹団子）、米粉うどん、ちまき、のっぺ汁づくり体験、田植え、稲刈り、畑作業の農業体験、竹細工（ゆらゆらトンボ・黒竹を使った昆虫・竹の器と割り箸）、わら細工（ぞうり・わらマット等）等の工芸体験と各種手芸の田舎体験を提供している。年間利用状況は、宿泊客：1,280人、日帰り：4,728人、食事：1,409人、体験：527人	
オーライ！ニッポン　ライフスタイル賞				
9	長野県 松本市	小峰　悦雄	東京八王子職員を40歳で退職し1992年移住。新規就農し苦労したが春から秋を中心に主にワインブドウ（シャルドネ・メルロー）の栽培と稲作90アールを管理し、妻はハウス野菜（ミニトマト・パプリカなど）と露地野菜（馬鈴薯・葉物野菜・切り花など）小麦を栽培している。二人の子供は地元の方と結婚して家も建て暮らしている。昨年末には自宅を登録「農林漁業体験民宿」として登録、今年から本格運用し、農業体験やアウトドア体験を提供する。若い頃から続けている自転車競技やランニング大会に時折出場し、障がい者スポーツ指導員として視覚障がい者の伴走練習やチェアースキーのサポートなどを行い。妻はソフトテニスをコンスタンスに行い、大きな大会にも出場している。	
10	三重県 熊野市	外園 淳一	生まれも育ちも東京。大学卒業後食品会社の営業マンを5年経験後、仕事・生活に悩み、大学時代に地域活性化に携わる4年間のボランティア活動の経験・スキルを活かせること、三重県が妻の出身地、両親の「学生時代、地域活動に励んでいた頃のお前は明るく楽しそうだったぞ！」という言葉に背中を押され、2011年に妻と共に三重県熊野市移地域おこし協力隊として高齢化率74%人口200人弱の中山間地域に移住し活動を開始。3年間の任期全う後に一度地域を離れるが地域が好き過ぎて2016年熊野市集落支援員として同地域に再移住し現在に至る。過去に所属・活動をしていたNPO法人NICEと連携を図り都市部の若者を1泊2日で呼び込み地域作業を協働で行う「週末ワークキャンプ」を2011年から現在まで12回開催。2017年からは国内外の若者が10日間地域に滞在する「国際ワークキャンプ」を実施するなど交流事業に取り組んでいる。	
11	高知県 室戸市	松尾　拓哉	大阪出身。幼いころから室戸の海、漁師に魅せられ、室戸市には、小学校3年生の頃から縁があり学校が長期休みになると電車とバスを乗り継ぎ大阪らか一人で室戸まで来て知り合いの民宿を手伝いながら定置網で採れた魚を譲ってもらったり自ら海に潜り魚を採取し水槽で飼育した りしていた。室戸に「漁師の水族館」を作りたいとの夢をもち、関東、近畿の水族館で飼育員として、サメや深海生物等の生物の飼育、移動氷族館等の運営に携わった後、2016年4月、漁業研修制度を利用し家族で移住し、子どもの頃からお世話になった漁師の師匠から漁業やホエールウオッチングの仕事を学ぶ。漁師を生業にしながら、身近な海の生き物をテーマにした体験学習プログラムなどを地域の学校やイベントなどで実施している。様々な企業や全国の水族館の協力を得て新たな資源開発をおこない持続可能な漁業を目指している。	
12	鹿児島県 南九州市	瀬川　知香	主人は農業。私は宿泊業。築70年の古民家を住民とともに改修し一棟貸しの宿泊業「暮らしの宿福のや」を営業している。旅行業界を志し大阪の旅行代理店で、企画・手配・添乗・営業と様々な経験を積み、着地型観光に強く関心を持ち地域住民と地域のための取り組みたいと高知県安芸市の観光協会にUターン転職。その後、着地型観光に一生携わるために地元の鹿児島にUターン。いちき串木野市で観光案内所のNPO法人化や旅行業登録を担当し、まちの旅行社としてバスツアーや体験プログラムの企画販売に取り組んだ。頴娃町のまちおこしメンバーと出会い、頴娃町の基幹産業である農業を発展と空家や空き店舗が増える商店街に新たな人の流れを創出するための観光客誘致に取組む姿勢に共鳴し頴娃町に移住。仲間とNPO 法人頴娃おこそ会でまちづくり活動を展開している。